

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H30-04	課題名	感染症及び食中毒起因菌の汚染実態に関する研究				
期間	2019～2021年度	担当部科室	保健科学部 細菌科				
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 本課題は、「岡山県感染症予防計画」における「感染症の発生の予防及びまん延の防止」及び「岡山県食の安全・食育推進計画」における「基本施策4 食中毒対策の強化」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 感染症及び食中毒（以下「感染症等」という。）の起因菌は、環境中に広く存在すると推定され、食品や浴槽水などの身近なものにも生息している。県内においては、レジオネラは散発的感染事例が続いており、腸管出血性大腸菌は散発感染事例とともに、昨年20年ぶりに集団食中毒も発生した。エルシニアは全国的に拡大傾向が見られる血清型菌があり、サルモネラは健康保菌者との接触による患者の増加リスクも潜在的に抱えている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 感染症の発生の予防及びまん延の防止のための施策を講じることは県の責務であり、本研究はその基礎となるものである。</p> <p>4 事業の緊要性 レジオネラ等の感染症等は、感染事例も発生し患者の増加リスクも存在している。全国的には腸管出血性大腸菌による死者を伴う食中毒事件も発生し、県内でも同様の事件が発生する可能性は否定できない。このような状況の中、感染症等の発生の予防及びまん延の防止を図る必要があり、効果的な対策を講じるためには感染源となる食品等の汚染状況や流行株の汚染実態を把握することが極めて重要である。</p>						
	調査研究の概要	<p>1 目標 レジオネラ等の感染症等起因菌の感染源となる食品等の汚染状況や流行株の汚染実態を把握する調査を行い、行政施策を実行する上で重要な科学的根拠を提示する。</p> <p>2 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> レジオネラ：患者発生状況、浴槽水、水溜まり等の環境中での汚染状況を調査する。 エルシニア：患者の血清抗体価等を調査する。（※倫理審査委員会の要承認） 腸管出血性大腸菌：患者発生状況把握、患者株の収集を行い、遺伝子型等を調査する。 サルモネラ：市販食肉・動物・鳥糞便等の環境中の汚染・保菌状況を調査する。 <p>3 技術の新規性・独創性 水溜まり等の他県での実施実績が少ない材料からの菌分離を行い、汚染調査を行う。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現可能性 あり 難易度 中</p> <p>5 実施体制 5人</p>					
成果の活用・発展性		<p>1 活用可能性 県内でヒト感染症から分離された菌株の分布、流行株の情報及び環境中の汚染源調査結果、市販食品の汚染状況調査結果を行政機関に提供することで、感染症等の発生の予防及びまん延の防止に係る対策に反映させることができる。</p> <p>2 普及方策 年報掲載 学会発表 他</p> <p>3 成果の発展可能性 レジオネラ等の感染症等の新たな感染源の究明に繋げられる可能性がある。</p>					
	実施計画	実施内容	年度	2019	2020	2021	総事業費
菌株の収集・分離 菌株遺伝子型等の性状解析 抗体価測定						〔単位：〕 千円	
		計画事業費	421	421	421		1,263
		一般財源	221	221	221		663
外部資金等		200	200	200	600		
人件費(常勤職員)		8,000	8,000	8,000	24,000		
総事業コスト		8,421	8,421	8,421	25,263		